

アルフレッド・R・マグルビー在沖米国総領事の県民を愚弄する発言に対する抗議決議

マグルビー総領事は、去る9月4日の就任記者会見で「普天間飛行場周辺が特に危険とは認識していない」「世界一が一人歩きしているがその認識は全くない」「どうして回りに住宅地が密集したか不思議である」「オスプレイは安全である」「辺野古に代替施設があったらこれほど異論は出ない」と述べた。

総領事の仕事は地元の人々の歴史や文化への適切な理解の下、地元の人々の思いを本国に伝えることであり、今回の発言は沖縄戦の戦渦を免れた住民が戻る前に接收し、力づくで住民を排除して基地が形成された沖縄の戦後史の理解も乏しく総領事の適格性に欠けるものである。また、過去にも、元在沖米国総領事は、沖縄への差別的言動を繰り返してきた経緯があり、沖縄県民を侮辱し、差別と偏見に満ちた確信的な発言であり看過できるものではない。

北谷町では、基地から派生する事件・事故への対応、日常的な騒音被害、度重なる外来機の飛来、深夜早朝の即応訓練や戦闘機の離着陸に戦後67年を経た今も苦しめられてきた。このような中、沖縄を愚弄した発言は到底許せるものではない。

よって、北谷町議会は在沖米国総領事の県民を愚弄する発言が県民の願いと民意を全く無視し、犠牲を強いるものであることから断固抗議するとともに下記事項を速やかに実現するよう強く要求する。

記

- 1 県民を愚弄する発言を撤回し、謝罪すること。
- 2 在沖米国総領事を更迭すること。

以上、決議する。

平成24年9月25日

沖縄県中頭郡北谷町議会

あて先

米国大統領 米国務長官 米国務省日本部長
駐日米国大使 在沖米国総領事